

3. 組織、運営面での取り組み

(1). 組織体制

常に現状実態に即した体制の整備見直しと充実により活動の活性化につなぐ。

(2). 各種団体組織の認知

行事の都度名義後援を得る等により行政、各種団体の認知を得て助成事業を含めた種々行事への参加機会

(3). 活動計画の具現化

基本的には、主担当(主導者)もしくはその委託を受けたものが、関係部門と連携を図りながら具体化し実行す必要に応じ担当組織横断的なプロジェクトを編成し実行にあたるか、協会組織を挙げて対応する。具体化に際しては、随時ミーリングリストを活用し情報伝達するとともに必要に応じ審議に供する。状況を見ながら将来的には理事の担当制を敷くか専門部体制での推進を指向する。

(4). 活動資金の確保

毎年項目を定めて各種団体への助成申請を行い、不足費用を充当する。
インストラクタ、ディレクタの増員を図るとともに、競技者登録者を多く募りJOAからの還元増を図る。
主催、後援で支援してくれる行政、新聞社、放送局、および協賛してくれるスポンサーを積極的に探す。

(5). 情報の発信

ミーリングリストを活用しJOA情報、大会情報等の提供を行う。(会員向け主体)
ホームページを活用し広く情報公開する。(一般向け主体)
普及行事の広報を積極的に行うとともに、事後のケアに十分配慮する。

(6). 計画の見直し

本計画は長期的視点に立って立案しているが、毎年実態を分析し見直すものとする。
さらに、年度ごとにブレイクダウンした単年度計画を策定する。

4. ありたい姿

(1). 3年後(2010年)

県内各地で年間5回以上の大会が開催されており、回を重ねるごとに新たな参加者が増えてきている。
パーマントコースも優先度の高いものは整備され、青少年施設用を含めOMAPも順次投入されつつある。
インストラクタが5名程度登録され、大会参加、大会開催の新しい若返りの力として期待できる。
インカレで活躍していた学生の就職もあり、全日本リレー選手権MEクラスに常時出場が可能になってきた。
組織としての円滑な運営もほぼ軌道に乗り、専門部体制を敷いてさらに活動を充実させるタイミングが見えてき

(2). 6年後(2013年)

クラシカル、パーク、トレイルを含め年間10回程度の大会が開催され、参加者は延べ1,000名に近い。
なお、各クラブ、ディレクタ、インストラクタがうまく連携し合理的に運営しているので負荷はそれほどではない。
パーマントコースの整備、廃止、新設が一段落し、青少年施設を含め常設コースの活用が増えつつある。
組織運営も専門部体制による分担主導體制になっており、役員の世界交代も完了した。
公認大会の準備を進めている。

(3). 10年後(2017年)

クラシカル、パーク、トレイルを含め年間10回以上の大会が開催され、参加者は延べ1,000名を優に越え、
県内での社会的認知も得られ、普及イベントへの参加者は継続して多くある。
クラブ員数も上昇に転じ練習会等活発に行われ、全日本リレー選手権への派遣は、一部クラスで選考会を開き決定するようになっており常時5クラス以上にエントリーしている。

以上